

部門	実施計画	地域ケアプラザ自己評価（振り返り）	区評価	備考
<b>地域ケアプラザ</b>				
	総合相談(高齢者・こども・障害分野への対応)	■ A □ B □ C		
	前年度評価〔 〕 ・地域活動交流部門で対応する相談については継続して地域活動交流の相談記録票を使用し共有していきます。また、些細な相談や事柄についての業務記録も引き続き、パソコン内にある様式を使用し地域交流で共有していきます。	地域活動交流で受けた相談については、随時、他部門へ周知する必要がある場合は報告書を作成し回覧、地域活動交流部門内についてはパソコンにおいて共有を図りました。	それぞれの部門で受けた相談等の情報についてしっかりと共有する体制が整っています。	
	地域活動交流部門・地域包括支援センターの連携	■ A □ B □ C		
	前年度評価〔 〕 ①「とつかハートプラン」地区別計画推進委員会支援チームに新たに主任ケアマネジャーが加わり、コーディネーターと連携して事務局を担います。 ②「地域ケア会議」には、コーディネーターも検討会議やケース選定会議から振り返りまでを通して参加し、個別課題と地域課題の共通認識を図っていきます。 ③汲沢地区社会福祉協議会、西横浜国際総合病院共催「健康医療講演会」は地域交流と地域交流と包括支援センターが協力して連携、地域課題でもあるテーマを設けて年間通じて実施していきます。	①今年度から主任ケアマネジャーが地区別計画推進委員会に加わり、個別ケースとの繋がりや、ケアマネの状況、そして地域ケア会議との関係性についてコーディネーターと密に相談しながら進めました。 ②「地域ケア会議」については当初からコーディネーターが携わり、今年度は事例提供者としても役割を担い、地域状況から考える「地域ケア会議」を実践しました。また主任ケアマネジャーを中心に地域包括支援センター、コーディネーターと一緒に「地域ケア会議」の結果を各地区で開催されている民生委員児童委員協議会の場で報告しました。 ③共催事業「知って役立つほっておけない認知症」を3回シリーズで開催し、1回目は130名の参加、最終回は汲沢地区住民がパネリストとして参加し住民みんなで考える機会として実施しました。	定例的なミーティングや日頃のコミュニケーション等により部門間の連携が図られています。また、ハートプラン地区別計画推進委員会に主任ケアマネジャーも参加するなど連携して推進しています。	
	職員体制・育成	■ A □ B □ C		
	前年度評価〔 〕 コーディネーター（社会福祉士：常勤1名） サブコーディネーター（非常勤4名）	コーディネーター（社会福祉士：常勤1名） サブコーディネーター（非常勤4名）	欠員が生じることなく、安定した体制が組みました。	
	地域福祉のネットワークの構築	■ A □ B □ C		
	前年度評価〔 〕 (1)小地域支援；各地区連合や各自治会町内会単位の地域課題やニーズに対して支援していきます。 ・汲沢地区； ①汲沢地区社協を中心に、ケアプラザと西横浜国際総合病院共催「健康医療講演会」を実施します。 ②今年度から新たに始まる汲沢地区連合町内会主催「汲沢ウォーク」にケアプラザも企画段階から一緒に協力して実施していきます。 ・踊場地区； ①踊場地区連合町内会、踊場地区社会福祉協議会、主任児童委員、ケアプラザの4者で子育て支援に関する検討会「お母さん応援隊」では新たに「子育てガイドマップ」の作成に取り組んでいます。 ②踊場地区青少年指導員主催、踊場地区連合、社協共催で開催される「踊場文化まつり」に今年度から全面的に協力していきます。 ③踊場地区独自の「見守り活動」を民生委員児童委員、老人クラブ連合会とともに、戸塚区社協と一緒に検討を進めていきます。 ・北汲沢地区； ①北汲沢地区連合町内会主催「統一防災訓練」の中で実施される「車いす研修会」に協力して実施していきます。 ②保健活動推進員主催講演会に地域包括支援センター共催事業として一緒に協力して実施していきます。 ③3地区の主任児童委員が集まり情報交換する機会を設けて定期的に実施していきます。 (2)各地域との関係作り ①地区の連合町内会、社会福祉協議会、民生委員・児童委員協議会定例会に参加し、広報紙等をとおして情報交換を行います。 ②地区社会福祉協議会等の定例会に出席することで、構成員である学校や関係機関との情報交換を常に行います。	(1)汲沢地区；①汲沢地区社協、西横浜国際総合病院共催事業として3回シリーズで「知って役立つ、ほっておけない認知症」事業を実施しました。 ②汲沢地区連合町内会主催、汲沢地区社会福祉協議会、汲沢地域ケアプラザ共催事業「汲沢ウォーク」を実施し、100名を超える住民の皆さんに参加して頂きました。 踊場地区；①「お母さん応援連絡会」として毎月定例会を開催し、主任児童委員を中心に、地区連合町内会、地区社協と一緒に「踊場子育てマップ」を作成し配布しました。 ②踊場地区主催「踊場文化まつり」に初めてケアプラザとして参加し実施しました。福祉体験コーナーとして、戸塚区子ども家庭支援担当協力の基、踊場地区保健活動推進委員会と一緒に「車いす体験」や「妊婦体験」を住民の皆さんに参加して頂きました。 ③踊場地区「見守り連絡会」を踊場地区社会福祉協議会、踊場地区民生委員児童委員協議会、踊場地区老人クラブ連合会、戸塚区社会福祉協議会と一緒に取り組みました。民生委員児童委員と友愛活動員との交流会を2回に渡り実施し、また毎月定例会を今年度から開催し見守りについて話し合いました。 ④「ちょこっとボランティア」においては毎月定例会に出席し後方支援に努めています。今年度は、活動の継続を主に、メンバーさんの意見を踏まえて、港北区で活動されているボランティアグループとの交流会を企画し、城郷小机CPにおいて実施しました。 北汲沢地区；①北汲沢地区「統一防災訓練」では北汲沢地区社会福祉協議会と協働で「車いす講座」を防災訓練の中で実施し、120名もの住民皆さんに体験して頂きました。 ②北汲沢地区保健活動推進員共催事業「老前整理」を新生会館で開催しました。 (2)①3地区の連合町内会、社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会の定例会には随時参加して報告を地域交流、包括支援センター内において共有しました。②今年度から3地区主任児童委員連絡会を開催し、3地区の状況把握から始め、助産師にも参加して頂いての情報交換、そして体験セットの再検証等を行いました。	エリア内に3つの特徴的な地区を抱える中、3地区の主任児童委員連絡会を開催するなど、ネットワーク構築の要として活動されています。	
	区行政との協働	■ A □ B □ C		
	前年度評価〔 〕 ①地区別計画推進委員会を定期的に開催します。 ②戸塚区見守りネット」について、コーディネーターはプロジェクトメンバーとして引き続き参加し、地域包括支援センターとともに事業の推進に協力して取り組みます。 ③戸塚区障害児者余暇活動支援事業「トンとん」、「やきもの遊び」を継続して実施します。 ④戸塚区精神障害者活動支援事業「あったまり場」を新たに実施します。 ⑤「元気作りステーション」事業は区とともに地域包括支援センター、そして地域交流も一緒に取り組みます。	①地区別計画推進委員会ではコーディネーターとして把握している地域状況等を勘案した方向性を示しながら推進委員会の皆さんと一緒に進めました。今年度は、他地区（西区第4地区）への見学会を企画実施、「踊場地区センターまつり」では「みんなで地域を知ろう！コーナー」を設置し地域活動の紹介パネルの展示やガリバーマップの体験コーナー、そして2地区保健活動推進員協力の基、健康測定コーナーを設けて700名を超える皆さんに会場に参りました。 ②包括支援センターとともに進めました。 ③戸塚区障害児者余暇活動支援事業「トンとん」、「やきもの遊び」を定期実施しました。 ④戸塚区精神障害者活動支援事業として2月に山梨県立大学準教授にお来し頂き、職員研修会「精神障がい理解」を実施し、3月には汲沢地区社会福祉協議会、西横浜国際総合病院共催事業「知って役立つ、ほっておけない認知症」を実施しました。	とつかハートプランでは他区への見学会を実施するなど活動の広がりを見せています。引き続き、区及び区社協と連携した取組を期待しています。区からの委託業務についても、前向きに取り組んでいただきました。また、選挙会場としてもご協力いただき、ありがとうございます。	



部門	実施計画	地域ケアプラザ自己評価（振り返り）	区評価	備考
<b>地域活動交流部門</b>				
福祉保健活動等に関する情報収集及び情報提供		■ A □ B □ C		
<p>前年度評価〔 〕</p> <p>①地域活動交流で作成している「地域アセスメント表（地域情報リスト）」について、26年度の地域支援目標を記載し地域への支援目標を明確にし取り組んでいきます。また、26年度終了した際には振り返りをします。</p> <p>②各地区連合エリア、各自治会町内会の小地域にある課題や地域ニーズを把握しアセスメントしていく為に、その都度記録を残し、4職種での情報共有する場を活用します。</p> <p>③アセスメントした上で、地域ニーズに即した事業展開を実施していきます。</p> <p>④高齢者福祉センター広報紙ふれあい交流「ぐみぐみ」を引き続き充実させケアプラザの情報だけでなく地域情報も積極的に掲載します。</p> <p>⑤各地区で作成し発行されている広報紙等においても積極的にケアプラザの情報や地域情報を掲載します。</p>	<p>①地域アセスメントの平成26年度目標については、各地区の関わり方や支援方法について記載し振り返りを行い、翌年度に繋げていきます。</p> <p>②各地区連合エリアや各自治会町内会における地域状況については、「地域ケア会議」を始め、連携している事業等を活用しながら4職種の共有に努めました。</p> <p>③地域アセスメントの動きに即した事業を実施しました。④高齢者福祉センター広報紙ふれあい交流「ぐみぐみ」に地域活動について積極的に掲載しました。また、広報紙についてはホームページ上でも掲載し、より多くの地域住民に見て頂く機会を作りました。</p>		<p>3 地区の実情に配慮しながら、地域に良く溶け込み、地域の課題の発掘やニーズの把握に努めています。地域アセスメントシートについても作成から振り返りまでしっかりと行い、事業の企画・実施に生かしています。</p>	
福祉保健活動団体等が活動する場の提供		■ A □ B □ C		
<p>前年度評価〔 〕</p> <p>①広報紙等を活用してケアプラザを利用して頂く環境を作ります。</p> <p>②子育てサークル「げんきっずクラブ」について、子育て支援サークルとして後方支援を継続していきます。また、活動存続に向けてコーディネーターが携わり、定期的な情報交換や検討の場を設けていきます。</p> <p>③自主事業に参加された方々には、必ず貸し館の利用案内を行い、自主サークルとして活動して頂けるように働きかけ、特に子育てサークルについては支援します。</p> <p>④図書コーナーの利用を高めるために、新たな目線で図書コーナーのリニューアルを図ります。新刊図書の購入を始め、案内掲示や利用方法等も検討していきます。</p>	<p>①広報紙は毎月発行し、地域情報とともに、ケアプラザの自主事業や貸し館の案内も掲載し、住民の利用を促す紙面を掲載しました。</p> <p>②子育てサークル「げんきっずクラブ」のキーパーソンの方と連絡を密に取り合い活動の継続に向けて話し合いました。また近隣にある地区センターを始め社会資源と繋いでいくことで、サークルの周知等の面で支援を行いました。③貸し館利用者には、常にサークルによるボランティア活動を促し、特に新規登録団体には最初の説明の時点で呼びかけています。</p> <p>④図書コーナーの利用を促す為に、書棚の配置交換や館内の案内掲示改訂を始め、「大きな活字本」の導入を積極的に行い、福祉施設ならではの独自色を出すことで利用促進に努めました。</p>		<p>図書コーナーでは他の施設にはない特徴的な取組として大きな活字本等の福祉施設ならではの書籍も導入しています。引き続き、利用促進を期待しています。</p>	
自主企画事業		■ A □ B □ C		
<p>前年度評価〔 〕</p> <p>①既存の自主事業を継続して実施し、終了後にはアンケートを必ず実施します。</p> <p>②地域関係団体と一緒に事業に取り組むことで、地域での連携を進めます。</p> <p>③高齢、障害、子育ての各自主事業について、自主化に向けて取り組みます。</p> <p>④ぐみざわ納涼祭について来場者数2000名を目標に取り組んでいきます。</p> <p>⑤「まちづくり」の視点から地域を見直し地域活動が活発になっていけるような事業を企画していきます。</p> <p>⑥新たに戸塚区精神障害者活動支援事業「あったまり場」を実施します。</p> <p>⑦各地域活動団体との共催事業をその都度企画し、実施していきます。</p>	<p>①全ての自主事業において必ず参加者アンケートを実施し事業展開に反映しました。</p> <p>②各地区地域活動団体と一緒に事業だけではなく、様々な場面で地域を考えていく機会を作り、一緒に地域を作り上げる環境づくりに努めました。</p> <p>③高齢者対象「ぐみさわ茶房」、障害児者対象「トンとん」や「やきもの遊び」、子育て支援「どれみの森のお友達」等の自主事業を実施し、その他の事業とともにどの自主事業も約10年を迎えている継続した自主事業となっています。</p> <p>④「ぐみざわ納涼祭」は今年度も2300人来場して頂き汲沢町内会、ぐみさわ東ハイツ自治会共催で開催しました。</p> <p>⑤「まちづくり」に繋がるように、「とつかハートプラン」地区別計画推進委員会において、西区第4地区見学会を開催し、地域を見つめなおす機会を設けました。</p> <p>⑥精神障害者活動支援事業については職員研修を始め、汲沢地区社会福祉協議会、西横浜国際総合病院共催事業「知って役立つほっとけない認知症」を開催しました。</p>		<p>地域の課題やニーズの把握に努め、自己評価にもあるように、地域活動団体と一緒に地域を作り上げる環境づくりに努めました。引き続き、ケアプラザのコーディネーター力を生かした環境づくりに期待しています。</p>	
ボランティアの育成及びコーディネート		■ A □ B □ C		
<p>前年度評価〔 〕</p> <p>①地域からのニーズに対して、登録されているボランティアやボランティアグループを紹介していきます。</p> <p>②地域団体だけでなく事業者からの相談にもお答えしボランティア調整を行います。</p> <p>③ボランティア希望者に対して地域活動を紹介し繋げていきます。</p> <p>④踊場地区社会福祉協議会「ちょこっとボランティア」や北汲沢地区社会福祉協議会「二輪草」、そして社団法人北汲沢地域総合福祉活動委員会などと引き続き協働し、利用者やボランティアの把握、そして新たな利用者やボランティアの紹介も含めて活動を支えています。</p> <p>⑤当施設のボランティアについて、随時、受け入れを行いコーディネートしていきます。また、導入から振り返りまで極め細やかな対応をし、ボランティアの継続できる環境作りに努めます。</p> <p>⑥自主事業に参加したボランティアについては、事業終了後には必ず振り返りを実施します。</p> <p>⑦地域住民から出されるニーズの中で「地域活動を立ち上げたい」という相談にも対応し、地域活動を組織化していくプロセスをコーディネーターとして確立させていきます。</p>	<p>①汲沢地区主任児童委員共催「プレママプチママあつまれ」にお越し頂いていた紙芝居ボランティアの方を、他地区主任児童委員皆さんにご紹介し、実際に子育て支援活動に繋がりました。</p> <p>②踊場地区「ちょこっとボランティア」等の日常生活支援活動等は、各事業者ケアマネからの問い合わせを受け、各地区社会福祉協議会等の地域活動主催団体に繋がりました。⑤新規施設ボランティア12名について、コーディネーターが必ずオリエンテーションを行い、現場のニーズを把握しながら調整しました。また、ボランティア活動を継続していけるよう、既存のボランティアと一緒に活動して頂く環境を作るなどの調整に取り組みました。</p> <p>⑥自主事業ボランティアについては毎回振り返りを行っています。</p> <p>⑦踊場地区においては、「母親応援隊」や「ちょこっとボランティア」を始め、今年度は「見守り連絡会」が開始される等、新たな活動が地域の担い手を中心に立ちあがっています。その際にはコーディネーターが必ず携わり活動の広報支援へ積極的に取り組みました。</p>		<p>新規ボランティアの育成だけでなく、既存のボランティアが継続して活動できるようにフォローもしっかりと行っています。</p>	

部門	実施計画	地域ケアプラザ自己評価（振り返り）	区評価	備考
<b>地域包括支援センター</b>				
総合相談・支援				
総合相談		■ A □ B □ C		
前年度評価〔 〕 ①高齢者に関するさまざまな相談を受け、内容に応じた適切な対応が出来るように努めます。 ②相談内容に応じて、区役所等の関係機関と連携し、適切なサービスに繋いでいきます。 ③必要に応じて継続的なフォローを行います。		①今年度は1月末現在で総合相談件数は1,734件で月平均173件となっております。 ・汲沢独自の総合相談受付マニュアルを作成し、随時改訂を行いながら、包括内での情報共有を行い、基本的な対応を統一し継続的な支援が行えるようにしています。 ・情報共有については、月2回のケース会議を開催し、期間内に関わりのあった全ケースについて支援の方向性の確認・検討を行っています。その他にも、個人情報適切に管理できるようにセキュリティをかけた環境で、早急な情報共有や対応が必要なケースについてはPC内に伝言版を作成し、継続的な支援が行えるような体制をとっています。 ・新しい事業所や制度等の情報収集を行った場合には紙ベースでの管理と、PC内で事業所一覧等の作成を行い、事業所内で共有し相談を受けた場合に対応ができるようにしています。 ②月1回のケア会議の開催。また、必要時には随時区役所などの関係機関へ連絡・相談しケース検討や同行訪問を行っています。 ③継続的フォローは汲沢オリジナルのマニュアルを作成し行っています。アフターフォローや（例：CMに引きついたケースについては、1カ月後にCMへ、2カ月後には家族へ状況確認するなど）、その他必要なケースについては随時支援方向をケース会議等を利用し検討しています。	○相談件数は横ばいのようなのですが、夜間（家族が仕事から帰ってきてから）の相談は増加傾向にあるようです。相談ケース情報の共有には、セキュリティに配慮しつつ、データベース管理により、効率化し、人員不足を補う工夫をしていただいています。 ○業務が多岐にわたり、とても大変だと思いますが、要支援ケースについて、地域に根差した一層の支援をお願いいたします。	
地域包括支援ネットワークの構築		■ A □ B □ C		
前年度評価〔 〕 ①地域包括のパンフレットを用いながらエリア内の関係機関に業務の周知活動を行います。 ②地域の社会支援（医療、生活支援、介護予防など）の現状把握や見直しをおこない、マップやリストの見直しを行い、関係機関との情報共有をはかります。 ③エリア内の見守り活動団体や関係機関（民生委員、友愛活動推進員など）と交流や情報共有ができる場について検討します。		①医療については「、医療機関相談窓口一覧」の見直し、（10包括での共同作業）や介護予防については包括エリアで実施している介護予防グループの紹介チラシの見直しを行い、地域住民に周知しました。②地域事業や地区民児協定例会に参加し、地域包括支援センターの役割・活動について周知しました。③地区民児協を中心、地域包括と地域支援の在り方を再確認するため「地区ケア会議」を開催しました。	○エリア内の医療機関や地域住民、民生委員児童員に地域ケアプラザの周知等を積極的に行っていただきました。	
実態把握		■ A □ B □ C		
前年度評価〔 〕 ①相談者の一覧名簿を作成し、課題、世帯状況、認知症の有無等の情報の把握管理に努めます。 ②各種インフォーマルサービスの実情把握と管理に努めます。 ③広報紙に包括の事業案内を行うほか、地域の各種事業に参加し包括の紹介を実施します。		①相談者の一覧名簿を作成し、区分が把握できるように管理を行い、継続的な情報の把握を行っています。 ②PCでインフォーマルサービスの一覧表を作成し情報管理。新たな情報入手や変更時はその都度更新しております。 ③毎月の広報誌に医師の健康相談、介護者のつどいの開催情報を掲載、また自主事業などの案内や活動報告などを掲載しました。広報誌を見てきたという方も多数あり、地域の方によく読まれていることがわかりました。 包括紹介の機会を作ることにより、実態把握に繋がっています。	○相談者一覧表や、インフォーマルサービス一覧表の作成・管理により、実態の把握につながるとともに、広報誌や会合での広報がきっかけで実態把握につながることも重視されているようで	
<b>権利擁護</b>				
権利擁護		■ A □ B □ C		
前年度評価〔 〕 ①権利擁護事業や消費者保護に関する制度について整理し、それに関する相談を行い、必要時には区役所・区社協等へ繋がります。 ②区長申立が必要な事例については、アセスメントに基づき、区役所へ繋がります。 ③親族申立支援にあたり、手続き等に関する相談を行います。 ④権利擁護事業や消費者保護等についての普及啓発のための講演会等を行います。		①権利擁護、消費者保護の情報提供が行えるようにパンフレット等の整理を行って、地域の方が自由に情報を得られるようにしております。相談があった場合には、その情報を利用して適切な対応を行い必要時には関係機関へ繋いだり同行訪問を行っています。 ②区長申立立てが必要な事例については、区へ速やかに繋がります。 ③親族申立支援については、制度の説明・手続き方法の相談を行っています。必要時には、専門家への相談・繋がりをしています。 ④10/3に「片付けが幸せを呼ぶ 老前整理」を開催しました。北汲沢保健活動推進委員と共催で開催し、地域の町内会館で講座を行いました。地域住民の方50名が参加されました。普段、CPまで来ることができない地域の方々が参加されました。その場で、地域包括支援センターのちらしを配布し役割の紹介も行いました。 ・興味のある内容を入り口とし、権利擁護を考えるきっかけと包括支援センターの周知活動に繋げることができました。	○権利擁護については、今後もサポートネットでの情報や人脈を活用し、展開していただくようお願いいたします。	



部門	実施計画	地域ケアプラザ自己評価（振り返り）	区評価	備考
	高齢者虐待	■ A □ B □ C		
	前年度評価〔 〕	①虐待事例については、速やかに区へ報告し、情報共有と支援の方向を検討しています。		
	①虐待事例に対し、区と支援の方向性を共有し、適切な支援が行えるようにします。 ②虐待と疑われる事例に関しても、区に報告し、支援の方向性を早期に検討していただけるようにします。 ③虐待防止の視点より、月1回の定例の「介護者のつどい」、及び年3回の「男の介護者のつどい」を開催をします。	②虐待と疑われる事例についても速やかに区へ報告し、関係者間でカンファレンスを開催し情報共有と役割分担などの支援の方向を検討し対応しました。 ③年12回介護者のつどいの定例会と年3回の男の介護者の集いを開催しています。毎回20名前後の方が参加しています。 ・新規の方は、ケアマネジャーからの紹介や総合相談での声かけ、参加者からの紹介、広報紙を見て直接の申し込みなどで随時受け入れています。 ・また、継続的に参加してもらうために、毎回、電話や配慮が必要な方にはメールを利用し声かけを行っています。 ・内容は、毎月テーマを決めて講座や催しを行い、介護者が孤立しないように情報提供や情報交換の場の提供を行っています。 ・会の運営に、介護者OBにボランティアとして協力してもらうことが定着しました。 ・ボランティアと介護者OBに協力してもらい、介護をうけている方をお預かりする体制としました。介護者が、安心して介護者のつどいに参加できるように致しました。	○虐待事例への対応については、今後も、情報共有を密に、事例の特性に応じて役割分担を適切に行いながら、対応していただけると幸いです。 ○介護者のつどいについては、社会福祉職のみならず、看護職等の協力も得つつ、毎回多くの参加者があり、回数も多く開催していただいています。今後ますます、介護者支援の重要性が高まると思っておりますので、このような重層的な取り組みが続くようお願いいたします。	
	認知症	■ A □ B □ C		
	前年度評価〔 〕	①介護予防事業において、自治会館集会所で認知症サポーター養成講座の開催や西横浜国際総合病院、汲沢地区区社協、汲沢地域ケアプラザ（地域交流、地域包括）との共催で認知症をテーマに3回シリーズで講座を開催。その中でサポーター養成講座を第2回目の講座で開催しました。		
	①包括エリア内の認知症キャラバンメイトや地域、医療との連携を図りながら認知症サポーター養成講座を開催し、認知症の正しい理解の促進を図ります。 ②キャラバンメイトが開催する認知症サポーター養成講座の周知や会場の提供など企画運営の支援を行います。 ③「みつけてネット」の普及啓発を実施します。	②地元キャラバンメイトが東汲沢コミュニティで開催の講座を支援しました。また、今年度認知症キャラバンメイト受講の推進をし、新たにエリア内に2名のメイトが誕生しました。 ③総合相談の場面で情報提供をした。地域の会合で情報提供している。今年度の汲沢エリア新規受付者は4件でした。	○認知症サポーター養成講座の開催も盛んであり、また、新たなキャラバン・メイトの育成にも積極的に取り組んでいただきました。	
介護予防ケアマネジメント				
	二次予防事業対象者把握	■ A □ B □ C		
	前年度評価〔 〕 ①エリア内3地区の高齢者の集い（老人会、会食会、高齢者住宅、サロン）や、介護予防講座開催、個別訪問時など、介護予防の話や暮らしづくりチェックを行ない二次予防事業対象者の把握を行ないます。 ②候補者には、継続してできる地域の社会資源への参加を推進します。	①エリア内3地区の高齢者の食事会や老人会、高齢者住宅のサロンで介護予防の話や基本チェックを実施し、それぞれの活動を継続して活動することが、介護予防につながることを説明し、認識してもらいました。 ②二次予防候補者には、元気づくりステーションや介護予防教室への参加を推進し、地域の活動に参加しています。	○二次予防事業対象者の把握が、元気づくりステーションや介護予防教室につながるという好循環ができています。	
	介護予防ケアマネジメント力	■ A □ B □ C		
	前年度評価〔 〕 ①元気づくりステーションや地域における健康づくりや交流促進を目的としたサークル活動G、老人クラブ活動など、地域の様々な社会資源も活用しながら、二次予防対象者から要支援者にいたるまでの一貫したケアマネジメントを実施し、住み慣れた地域で暮らせるように、生活機能の低下の早期発見や介護予防に努めます。 ②介護予防支援においてプラン委託の場合は、同行してスムーズにコミュニケーションが図れるようにします。 ③委託先のケアマネジャーや包括職員間で情報の共有を密にして、担当者不在でも迅速な対応を心がけます。	①二次予防対象者には、エリア内3地区に立ち上げ、自主活動している介護予防活動グループや近隣の介護予防活動（踊場地区センター、踊場地域ケアプラザなど）マップを更新し、情報提供しました。 また、平成24年に発足の「元気づくりステーションさくらの会」には、新たな参加者も増え、その中には要支援者や心の病の方も新たに参加するようになりました。また閉じこもり予防で訪問指導を実施、自立で通えるようになった方もいます。さらに25年度は、「元気づくりステーションぐみの会」、今年度は元気づくりステーションさつき百の会が誕生し、エリア内3地区にすべてに元気づくりステーションが立ち上がり、いづれも継続支援をしております。 発足にあたっては、エリア担当保健師や地域コーディネーターと協力して、発足前に地区連合町内会会長や会場となる自治会長に事前説明を行い、会場提供や広報活動の協力を得るなど、地域の後方支援や保健活動推進員の協力のもと開催しています。 ②介護予防支援においては、委託事業者のケアマネジャーと必ず同行して、利用者の状況と一緒に把握し、支援がスムーズにいくように、またご利用者が安心してコミュニケーション図れるように配慮しています。 ③地域包括会議での報告やケース経過記録をPCで情報管理し、最新の状況が包括職員間で共有できるようにし、迅速な対応ができるようにしています。”	○元気づくりステーションの実績は、戸塚区内随一と言っても過言ではありません。地域住民の方のニーズを把握し、気持ちづくりからきちんとされ、長く続く会を創り出していらっしゃる感じが感じられます。	

部門	実施計画	地域ケアプラザ自己評価（振り返り）	区評価	備考
包括的・継続的ケアマネジメント支援				
	地域住民、関係機関等との連携推進支援	■ A □ B □ C		
	前年度評価〔 〕 ①地域交流と協働し、自治会地域活動・インフォーマルサービスの実情を把握、地域包括ケアに向けた情報収集・整理を行ない、地域に情報を返していくとともにケアマネジャーに情報提供を行なっていきます。また、地区民生委員児童委員協議会や地域事業に参加することにより相互理解を深め、包括支援センターとの円滑な協働体制づくりに努めます。 ②ケアマネジャーのケアマネジメントを支援するため、必要に応じてケアマネジャーが孤立せずチームケアができるよう包括支援センターが民生委員や地域活動との橋渡しに努めます。 ③地域包括ケアの実現	①地域交流との協働により、地区民児協働例会・地域事業に参加し、地域支援者との顔の見える関係づくりに努めた。②ケアマネジャー支援を目的に「けあまね勉強会」を3回開催。また、日常的に支援困難ケースの相談を受け、必要に応じて担当者会議参加や訪問を行なった。③「地域ケア会議」を中心にした汲沢における地域包括ケアの進め方を示し、プラザ内や地域と共有・協働により「地域ケア会議」を3回開催、また、地域における地域支援者・専門的支援のあり方を明確化するため地区民児協を中心、「地区ケア会議」を2回開催した。	○地域の方との顔の見える関係作り、ケアマネジャー支援などに力をいれていただきました。	
	医療・介護の連携推進支援	■ A □ B □ C		
	前年度評価〔 〕 ①ケアマネジャーと医療機関とのネットワークの構築の為、情報交換会等を行います。 ②地域ケア会議等への参加や包括支援センターの役割を周知する等地域の医療機関との連携を図っていきます。	ケアマネジャーと医療機関が円滑に連携できるよう、区主任ケアマネジャー連絡会との共催により勉強会を開催した。また、医療機関名後の更新を行い区内ケアマネジャー全員に配布した。	○従来より、西横浜国際病院との連携を構築されてきていることで、今後の展開も期待できそうです。	
	ケアマネジャー支援	■ A □ B □ C		
	前年度評価〔 〕 ①ケアマネジャーが孤立せず支援できるよう、相談しやすい関係づくりやいつでも相談できる体制を維持していきます。 ②地域包括ケアにおけるケアマネジャーの役割や立ち位置の確認や地域ケア会議による地域を巻き込んだ他職種協働のあり方について周知していきます。 【実施内容】 ・相談支援（相談対応、支援困難事例、緊急対応時等の支援） ・ケアマネジメントの質の向上に努めます。（サービス担当者会議の開催支援・スーパーバイズ、研修会等の開催、地域関係団体等との連携支援） ・新人、就労予定ケアマネジャーに対する研修等の実施をします	①ケアマネジャーが相談しやすい関係づくりのため「けあまね勉強会」を開催し、会の見える関係づくりに努めた。②汲沢地域における地域包括ケアの考え方を示し周知することにより、地域におけるケアマネジャーの支援の立ち位置、地域支援者との連携について現況会を開催した。	○今後の汲沢エリアの地域包括ケアシステムの展開の、基礎固めをしていただきました。	
	多職種協働による地域包括支援ネットワーク	■ A □ B □ C		
	地域包括ケアに向けて区エリア担当の保健師やケースワーカーと連携しながら、地域交流と地域包括支援センター協働で「地域ケア会議検討会」を毎月開催し情報共有や種々課題の取り組みを検討します。	地域交流との協働により、汲沢における地域包括ケアの考え方・地区展開の方法について、地域へに周知を図った。また、毎月「地域ケア会議検討会」を開催し、区エリア担当保健師やケースワーカーとの連携を密に行なった。	○今後も、ケアプラザ協力医などの協力を得ながら、ネットワークを拡充していただけると幸いです。	
介護予防事業				
	介護予防事業	■ A □ B □ C		
	前年度評価〔 〕 ①介護予防普及強化事業として、汲沢地区ぐみさわ東ハイツ集会所で健康教育を3回開催し、その後は介護予防教室を同じ場所で月1回開催し、継続Gの発足の支援を行います。 ②健康ライフ講座終了者で自主活動しているグループやエリア内2か所ある元気づくりステーションとの交流を図ります。 ③講座受講者が継続して地元で介護予防の取り組みが継続できるように、人材育成のためフォローアップ研修や区で行われる研修参加の推進を行います。 ④エリア外の二次予防事業候補者になられた参加者がいる場合は、地域支援事業に参加しやすいように他の	①地域コーディネーターの地域アセスメントと地域包括のアセスメントを情報共有しながら、汲沢地区ぐみさわ東ハイツ集会所で、健康教育を3回開催。その後月1回介護予防教室を開催し、参加者の健康意識を高めたり、担い手の育成をしながら継続G発足のための支援を行っています。その結果、来年の元気づくりステーションの候補にとまで参加者の意識が高まっております。 ②③自主活動しているGの広報や運営企画の支援や区で開催のサポーター養成講座への参加の推進をおこないました。メンバー同士の解決が難しい内容を地域包括がサポートすることで、継続がスムーズになったり、研修受講者は自信を持つようになるなど効果を上げることができました。初の試みで、3月にはエリア内介護予防サポーター同士の情報交換会を開催する予定です。 ④他の地域ケアプラザエリアからの参加者がいる場合に連携が取りやすいように、連携を密にしました。 ⑤地域の老人会や食事会に参加し、健康のはなしや認知症予防で「脳トレクイズ」を行いました。参加者の笑い声でにぎやかに行うことができました。 ⑥元気づくりステーションさくらの会やぐみの会が活動しやすいように、区と共同で広報活動や講師の派遣を行いました。その結果要支援者など、新たなメンバーが増えました。 ⑦汲沢地区に元気づくりステーションさつき百会を平成26年10月に発足。ハマトレを取り入れた指導をうけ、自主的に活動できるように前向きに取り組んでいます。	○地域アセスメントを多面的に検討し、情報共有し、講座や事業を開発する方式で、住民の方の課題と意欲にマッチした戦略的な事業展開ができています。	
その他考慮すべき事項				